

平成 2 8 年 6 月 9 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012 ~ 2015

課題番号：24330092

研究課題名 (和文) リスク構造変化を含む経済環境変化が経済成長に与える影響に関する理論的・実証的研究

研究課題名 (英文) Theoretical and empirical research on the effect of changes in risk structure on the economic growth.

研究代表者

八木 匡 (Yagi, Tadashi)

同志社大学・経済学部・教授

研究者番号：60200474

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 13,300,000 円

研究成果の概要 (和文) : 本研究では、リスク構造の本質を研究し、主として人的資本形成の失敗がもたらすリスクの程度と幸福感に与える影響について実証的な分析を進めた。人的資本形成の失敗は、かならずしも学歴形成の側面だけで無く、倫理規範といった面での失敗がもたらす社会的評価の下落といった問題も考慮しており、それがライフタイムでの幸福感の下落をもたらすことを示している。このように、本研究では、偶発性に基づくリスク以上に、個人の選択行動の誤りによって高まるリスクが、長期的に大きなものであることを示し、そのようなリスクを回避するための政策について言及した。

研究成果の概要 (英文) : In this research project, we investigated the essences of the risk. We mainly focus on the issues of risks generated from the failure of human capital accumulation. It is shown that the failure in educational career but also the failure of moral formation brings about the serious devaluation as a human capital in the market, and decline of happiness. As a result, we showed that the costs of risks generated from the non-optimal decision making is quite serious, and we discussed the policies for remedying the mis-choice of individuals.

研究分野：公共経済学

キーワード：リスク 人的資本 モラル 社会的評価 主体的選択 教育 子育て 幸福感

1. 研究開始当初の背景

人は生まれてから人生を終えるまで、様々なリスクに直面している。現在社会において、人々が直面するリスクは、社会システム上の不備および環境変化等の理由により、増大していると言って良い。医療システムの不備によるリスク、学校教育でドロップアウトするリスク、教育政策の失敗による低所得リスク、企業の雇用形態の歪みによるワークライフバランスの欠如、女性のキャリア形成阻害のリスク、年金制度財政悪化のリスクなどである。

2. 研究の目的

上記で述べた様々なリスクに関して、国内・国外において数多くの研究蓄積が存在している。しかしながら、リスクを生み出す社会制度上の不備とか問題が、人生の様々な局面でのリスクとどのように関連しているのかという、包括的なアプローチによる研究は十分には進められていない。例えば、雇用における非正規化、非婚化および少子化の本質的な要因となっているだけでなく、所得格差の拡大をもたらし、教育機会の不平等をも引き起こし、社会における不公平感の拡大と意欲格差の拡大をもたらし、犯罪の増大といった社会不安を引き起こす遠因ともなっている可能性がある。この例からも分かるように、様々なリスクを分離して、個別に研究するのみでは、リスク社会の本質的な構造を明らかにすることができないことになる。本研究は、リスク社会の本質的な構造を明らかにし、より本質的かつ有効性の高い政策を提示することを目的としている。

3. 研究の方法

リスク社会の本質的な構造を明らかにするため、様々なリスクの相互依存関係と市場均衡への影響分析を進める。この段階では、理論モデルの構築と仮説の導出がまずは主要な作業となる。仮説が導出された後に、仮説検証のための実証分析を行う。この段階では、マクロデータとアンケート調査によるミクロデータを補完的に用いながら進める。研究の方向性としては、いかに市場均衡条件とリスク構造とをリンクして分析できるかを検討する。

研究遂行においては、ワークショップ等によって、国際的なレベルで様々な研究者との研究交流を進める。本研究では、創造的労働者のインセンティブと整合的な所得保障プログラムを、著作権制度、パブリック・パーチェイププログラム、クリエイターのジョブマッチングコーディネーションプログラムといった点に焦点を置きながら、妥当性を検討する。

本研究が進める重要な課題は、主要4パートで分析される様々なライフリスクが、財・サービス市場、労働市場といった市場でそれぞれどのように影響を及ぼし合い、市場均衡状態にどのようなメカニズムで影響を与えるかを分析することにある。例えば、女性の

教育投資のリスクは、企業におけるワークライフバランスの改善により減少することになる。このことは、女性の高等教育投資を増大させ、大卒労働市場の均衡に影響をもたらすと考えられる。また、リスク変化は、労働生産性にも影響を与え、財市場均衡、経済成長率への影響を通じてマクロ的効果を持つと考えられる。

本年度は、

(1)ワークライフバランスに関しては、政府統計の個表データを用いた、労働供給行動への影響分析

(2)介護保険制度の効率性と公平性のバランスと料金システムの検討

(3)教育政策における基礎学力形成の問題

(4)大卒労働市場のリスク増加要因の分析に焦点を当てた分析を進める。

4. 研究成果

社会構造変化とリスク構造変化がもたらすコミュニティ活動への影響分析と社会保障制度の有効性に与える影響分析に関しては、コミュニティ参加における便益と費用の大きさが、どのような要因によって変化するかを、パーソナリティ情報を含めながら分析した。そして、リスク構造が変化したときに、どのようなタイプの個人がコミュニティ活動をどのように変化させるのかを構築したマイクロデータから分析し、コミュニティの機能がリスク構造の変化に伴ってどのように変化するかを調べた。また、リスク構造に対応するために、コミュニティ機能の向上と橋渡し型社会関係資本の醸成の上で進めるソーシャルビジネスの重要性に着目し、研究を進めた。淵上智信と執筆した「人材育成における内発的動機形成の重要性と能力開発における新たな方法論」(Quality Education, Vol. 7.)では、ソーシャルビジネスを運営する人材育成に関する理論的および実証的考察をまとめたものである。また、浦川、米崎との共著論文である、“Happiness and Employment Status” (T. Tachibankai eds. Advances in Happiness Research: A Comparative Perspective, Springer, January 2016.)では、非正規労働の心理的コストまで把握した上での、非正規労働就業のリスクについて分析している。また、西村等との共著論文“Basic Morality and Social Success in Japan,” (Journal of Informatics and Data Mining, Vol.1, No.1:6, 1-10)では、モラルと信頼形成に関する質問を含めた、教育投資行動と教育収益(所得データ)に関する調査を行った結果をまとめたものである。これらの研究により、労働市場における信頼形成の価値を明確にし、倫理形成に関するリスクを明確にしている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 37 件)

2015 年

- 1) 宮澤和俊、「養育財生産，技術的補完，および出生率動学」『経済学論叢』(査読無)
- 2) 伊多波良雄、山崎その・宮嶋恒二、「DEA Malmquist 生産性指数を用いた大学経営の分析「-大学経営効率化」に関するアンケート調査結果から-」『経済学論叢』第 68 巻 1 号 2016 (査読無)
- 3) 八木匡、洲上智、「人材育成における内発的動機形成の重要性と能力開発における新たな方法論」Quality Education Vol.7 2015 (査読無)
- 4) Nishimura, Kazuo, Junnichi Hirata, Tadashi Yagi, Junko Urasaka "Basica Morality and Social Success in Japan" Journal of Informatics and Data Mining, Vol.1, No.1:6, 2015 (査読有)
- 5) Yagi, T., "Nonlinear Effects of Superstar Collaboration: Why the Beatles Succeeded but Broke Up" Applied Economic and Finance Vol. 2, 2015 (査読有)
- 6) Yagi, T., "Determinants of Movie Review Ratings: New method by using Big Data" (with Seiya Murata), Journal of Business and Economics, February 2015, Vol. 6, No. 2, pp.231-241 DOI: 10.15341/jbe(2155-7950)02.06.2015/001 (査読有)
- 7) 伊多波良雄 「地域間移動は所得と生活の満足度を引き上げるか？」『経済学論叢』第 67 巻 1 号 2015 (査読無)
- 8) Itaba, Yoshio "Evidence of the Effect of Local Government Size on Happiness in Japan" Proceedings of the 71th Annual Congress of the International Institute of Public Finance, Dublin, Ireland 2015 (査読有)
- 9) 川口章 「日本経済における女性活躍の課題 - 日本の雇用制度に着目して - 」『日本労務学会誌』第 16 巻 1 号 2015 (査読有)
- 10) Kawaguchi, Akira "Internal Labor Markets and Gender Inequality: Evidence from Japanese Micro Data, 1990-2009" Journal of the Japanese and International Economies Vol.38 2015 (査読有)
- 11) Kawaguchi, Akira, Okudaira, H., Kinari, Y., Mizutani, N., Ohtake, F. (共著) "Older Sisters and Younger Brothers: The Impact of Siblings on Preference for Competition" Personality and Individual Differences Vol.82 2015 (査読有)
- 12) Sasaki, Masayuki, "Creative Cities of the 21century: Their Diversity and Network" The Doshisha University Economic Review Vol.67-No.4 2015 (査読無)
- 13) 佐々木雅幸「対談，今なぜ地域の視点に立つ地域創造か」『社会教育』59 巻 1 号，pp.5-14, 2015 年 1 月 (佐藤一子・東京大学名誉教授との対談) (査読無)

- 14) 佐々木雅幸「包摂型創造都市・大阪」『都市文化研究』大阪市立大学都市文化研究センター17 号，pp.119-128, 2015 年 3 月 2014 年 (査読無)

15) Miyazawa, K. (2014) "Grandparental child care, child allowances, and fertility", Center for the Study of the Creative Economy Discussion Paper Series 2014-03,1-16. (査読無)

16) Yagi, T. "Knowledge Creation By Consumers and Optimal Strategies of Firms," Journal of Knowledge Economy, DOI 10.1007/s13132-014-0195-6, Published on line Feb.27, 2014. (査読有)

17) 伊多波良雄・壁谷順之「法人事業税の外形標準課税制度と税収の地域間格差」(同志社大学)第 65 巻第 4 号，2014 年 3 月，1-27 ページ (査読無)

18) 伊多波良雄・山崎その・宮嶋恒二「大学における就職支援の効率性評価」『研究論叢』(京都外国語大学)第 83 巻，2014 年，367-386 ページ (査読有)

19) 伊多波良雄・山崎その・宮嶋恒二「大学のガバナンスと経営効率性」『経済学論叢』第 66 巻第 3 号，2014 年 12 月，1-19 ページ (査読無)

20) 林智子、伊多波良雄、八木匡 「税負担と行政サービス意識に関する経済分析」『会計検査研究』第 51 号 PP11-31 2015 年 3 月 (査読有)

21) Sasaki, M. "Cultural Cluster and Cityscape in Kanazawa and Yokohama" 『季刊 経済学研究』36 巻 1.2 号 pp.59-78, 2014 年 (査読無)

22) 佐々木雅幸「伝統工芸と創造都市：京都と金沢からの創造」『地域開発』602 号，pp.18-24, 2014 年 11 月 (査読無)

2013 年

23) 宮澤和俊「稼得能力分布と経済成長」，『経済学論叢』，65 巻 4 号，157-191.、2013 年度 (査読無)

24) 宮澤和俊敏「自制心、出生率、および資本蓄積」『経済学論叢』同志社大学 第 64 巻 3 号 PP. 269-285 2013 年 (査読無)

25) Yagi, T. Takashima, C., Usui, Y. (2013), The Income Security System in Japanese Traditional Performing Arts: A strategy for utilizing the nation's traditional arts resources, Journal of Modern Auditing and Accounting, May 2013, Vol. 9, No. 5, pp. 697-710 (査読有)

26) Yagi, T. Hirata, J., Nishimura, K., Urasaka, J. "Annual Incomes of University Graduates and their Science Studies during High School Periods", Recent Advances in Modern Educational Technologies, edited by Hamido Fujita and Jun Sasaki, pp.42-45, WSEAS Press, April 2013 (査読無)

27) Yagi, T. Hirata, J., Nishimura, K., Urasaka, J. (2013), "Mathematics &

Science Education and Income: An Empirical Study”, Journal of Reviews on Global Economics, 2013, 2, pp.1-8. (査読有)

28) 伊多波良雄、有吉忠一 「スポーツ観戦需要の要因分析について」 『経済学論叢』同志社大学 第 65 巻第 3 号 PP.47-74 2014 年 3 月 (査読無)

29) 伊多波良雄・塩津ゆりか 「公的年金制度と幸福度の関係に関する分析」 『日本年金学会誌』第 32 号, 2013 年 7 月, 24-31 ページ (査読有)

30) 伊多波良雄 「マクロ経済学入門 スポーツの経済効果をどのように測るか」 (特集 スポーツで入門! 経済学), 『経済セミナー』2013 年 4・5 月号, 平成 25 年 5 月, 27-31 ページ (査読無)

31) 伊多波良雄 「幸福度分析に基づく財政活動の評価分析」 『経済学論叢』第 65 巻第 1 号, 2013 年 7 月, 131-150 ページ (査読無)

32) 伊多波良雄 「地域政策としての “まつり”」 『地方議会人』44(3), 2013 年 8 月, 13-16 ページ (査読無)

33) 伊多波良雄、山崎その、宮嶋恒二、「大学経営の実態(その 1) 大学経営効率化に関するアンケート調査結果から」 『大学行政管理学会誌』PP.31-43 2013 年 (査読有)

2012 年

34) Miyazawa Kazutoshi “Sibling Rivalry and Fertility Dynamics in the Gift Economy” Life Risk Research Center Discussion Paper Series (Doshisha University) PP.1-12 2012 年 (査読無)

35) 八木匡、原田禎夫 「介護パターンの最適性と介護サービス選択行動」 同志社大学ライフリスク研究センター編 『社会保障改革への提言』第 6 章 PP110-138 2012 年 (査読無)

36) 八木匡、宇沢弘文、橘木詔俊、内山勝久 編 「教育と格差社会」 『格差社会を超えて』第 4 章 pp. 117-142 2012 年 (査読無)

37) 浦坂純子、西村和雄、平田純一、八木匡 「パネルデータに基づく理系出身者と文系出身者の年収比較」 『クオリティー・エデュケーション』第 4 巻 pp.1-9 2012 年 (査読有)

〔学会発表〕(計 30 件)

2015 年

1) 伊多波良雄 「私たちの幸福感を決めるのは何か? また、これから何を学ぶのか?」 「街かど大学」(2015 年度 同志社大学プロジェクト科目)講演 キララ館、京都府京田辺市 2016 年 1 月 14 日

2) 伊多波良雄、山崎その、宮嶋恒二、「大学経営の効率性を高める方策の検討」日本評価学会第 16 回全国大会 JICA 沖縄国際センター 2015 年 12 月 13 日

3) 宮澤和俊 「少子化対策としての国債管理政策」, 日本応用経済学会(招待講演), 獨協大学, 埼玉県草加市, 2015 年 11 月 15 日

4) Miyazawa, K. “Childcare production, technological complementarity, and fertility dynamics”, International Workshop on OLG and CGE (invited), 名古屋市立大学, 愛知県名古屋市, 2015 年 10 月

5) Miyazawa, K. “Grandparental child care, child allowances, and fertility”, International Institute of Public Finance, Dublin, Ireland, 2015 年 8 月 21 日

6) 伊多波良雄 Evidence of the Effect of Local Government Size on Happiness in Japan, Proceedings of the 71th Annual Congress of the International Institute of Public Finance, トリニティカレッジ Dublin, Ireland 2015 年 8 月 21 日

7) Miyazawa, K. “Grandparental child care, child allowances, and fertility”, Western Economic Association International, Hawaii, USA, 2015 年 7 月 1 日

8) 佐々木雅幸 “Creative Cities of the 21 century: Their Diversity and Network” ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会(基調講演) ANA クラウンプラザホテル金沢、石川県金沢市 2015 年 5 月 26 日

9) Miyazawa, K. “A debt management rule, fertility, and growth”, Western Economic Association International, Wellington, New Zealand, 2015 年 1 月 9 日

2014 年

10) 八木匡, 「雇用の非正規化がもたらす幸福感への影響 - 幸福感の分解分析を用いたアプローチ」, 2014 年 12 月 7 日、第 8 回行動経済学会特別セッションでの招待講演、慶應義塾大学

11) 宮澤和俊 “Grandparental childcare, child allowances, and fertility”, 日本応用経済学会, 中央大学, 2014 年 11 月 16 日

12) 伊多波良雄 講演 「2020 東京オリンピック・パラリンピックの経済的インパクト」スポーツ科学研究所設立記念シンポジウム(アルカディア市ヶ谷), 2014 年 11 月 8 日

13) 佐々木雅幸 報告 “Creative Cities in Japan: It's Diversity and Network” アジア欧州会議 ASEM2014 の文化大臣会合 オランダのロッテルダム, 2014 年 10 月 21 日

14) 伊多波良雄 報告 “Does City Size affect Happiness?” International Conference Comparative Study on Happiness, EHES, Paris, 16-17 October, 2014

15) 伊多波良雄、山崎その、宮嶋恒二 報告 「学長のリーダーシップと大学経営」大学行政管理学会, 第 18 回定期総会・研究集会(東北学院大学), 2014 年 9 月 7 日

16) Miyazawa, K. “A debt management rule, fertility, and growth”, International Institute of Public Finance, Lugano, Switzerland, 2014 年 8 月 22 日

17) 伊多波 良雄、山崎 その、宮嶋 恒二 報告 「大学におけるガバナンスと経営効率との関係性の実証研究」, 日本高等教育学会第 17 回大会実行委員会 (大阪大学) 2014 年 6 月 28 日

18) Yagi, T. "Determinants of Movie Review Ratings: New method by using Big Data" (with Seiya Murata), June 25, 2014, University of Quebec in Montreal, Canada

19) 伊多波 良雄、山崎 その、宮嶋 恒二 報告 「大学のガバナンスと経営効率」, 日本評価学会第 11 回全国大会 (JICA 地球広場), 2014 年 5 月 31 日

20) Miyazawa, K. Tilburg-Nagoya Workshop on Population Economics, "Life-cycle earnings and economic growth", Tilburg University, 2014 年 3 月 14 日

2013 年

21) 八木 匡 「基本的モラルと社会的成功」, 行動経済学会京都大学大会、2013 年 12 月 14 日

22) 伊多波良雄、山崎その、宮嶋恒二 報告 「大学経営効率化に関するアンケート調査から」, 大学行政管理学会 第 17 回定期総会・研究集会 (於 東京電機大学), 2013 年 9 月 8 日

23) Tadashi Yagi, "Non-linear Effect of Super Star Collaboration-Why the Beatles Succeeded and Broke Up?", 文化経済学会 <日本> 東京大学大会、2013 年 6 月 29 日

24) Tadashi Yagi, "Optimal Strategy for Knowledge Creation by Collaborating with Consumer", 日本経済学会春季大会 富山大学、2013 年 6 月 22 日

25) 八木 匡 "Optimal Strategy for Knowledge Creation by Collaborating with Consumer" Western Economic Association International 10th Biennial Pacific Rim Conference 2013 年 3 月 15 日 慶應義塾大学 (東京都)

2012 年

26) 八木匡 「心理的コストとコミュニティ活動の最適性」『行動経済学会』2012 年 12 月 8 日 青山学院大学 (東京都港区)

27) 宮澤 和 俊 "Sibling Rivalry and Fertility Dynamics in the Gift Economy", 応用地域学会, 青森公立大学 (青森県), 2012 年 11 月 18 日

28) Miyazawa, K. "Healthy Life Expectancy, Dynamic Efficiency, and a Pareto-improving Subsidy for Long-term Care", International Institute of Public Finance, Dresden, Germany, 2012 年 8 月 16 日

29) 八木匡 "The Income Security System in Japanese Traditional Performing Art" 17th International Conference on Cultural Economics by the Association of Cultural Economics International, Doshisha University 2012 年 6 月 23 日 同志社大学

(京都府京都市)

30) 八木 匡 "Optimal Strategy for Knowledge Creation by Collaborating with Consumer" Western Economic Association International 10th Biennial Pacific Rim Conference 2013 年 3 月 15 日 慶應義塾大学

〔図書〕(計 9 件)

1) 川口章、晃洋書房、『政策科学の現在』同志社大学大学院総合政策科学研究科編 「女性活躍推進政策 法制化と残された課題」 2016 年

2) Yagi, T., Itaba, Y. 他, Springer, "Advances in Happiness Research: A Comparative Perspective" 2016 年

3) 宮澤和俊、日本評論社、経済セミナー増刊「総力ガイド! これからの経済学 - マルクス、ピケティその先へ - 」 「家族の経済学」, 2015 年

4) 伊多波良雄 「異なる公的年金制度への加入と幸福感」 橋木俊詔著『幸福』 ミネルヴァ書房, 所収, 2014 年 3 月, 93-111 ページ

5) 伊多波良雄 編著 「財政のあゆみ」『京都市政史 第 3 巻』京都市, PP.1-344 2014 年 3 月 (査読無)

6) 伊多波良雄 「行財政論」 近畿都市学会編 『都市構造と都市政策』 古今書院, 222-230 ページ, 2014 年 3 月

7) Itaba, Y. "What do People think about Basic Income in Japan?" in Basic Income in Japan, Vanderborght and Yamamori (eds.) Palgrave Macmillan, 2014, Oct.

8) 佐々木雅幸・川井田祥子・萩原雅也 『創造農村: 過疎をクリエイティブに生きる戦略』 共編著 学芸出版社、2014 年

9) 横山勝彦、八木匡、松野光範編著、朝原宣治、石井智、向山昌利 「スポーツの組織文化と産業」 晃光書房 2012 年

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

八木 匡 (YAGI, Tadashi)
同志社大学・経済学部・教授
研究者番号：60200474

(2) 研究分担者

橘木 詔俊 (TACHIBANAKI, Toshiaki)
同志社大学・経済学部・教授
2013 年度まで
研究者番号：70112000

伊多波 良雄 (ITABA, Yoshio)
同志社大学・経済学部・教授
研究者番号：60151453

宮澤 和俊 (MIYAZAWA, Kazutoshi)
同志社大学・経済学部・教授
研究者番号：00329749

川口 章 (KAWAGUCHI, Akira)
同志社大学・政策学部・教授
研究者番号：50257903

佐々木 雅幸 (SASAKI, Masayuki)
同志社大学・経済学部・教授
研究者番号：50154000

(3) 連携研究者

()

研究者番号：